



人気最高2大スターの初顔合せで
放つロマン・アドベンチャー!

ロバート・レッドフォード フェイ・ダナウェイ

ニューヨークの真只中を襲った戦慄のワシントン指令!
全米恐怖の巨大組織CIAに挑む華麗なる男《コンドル》!



THREE DAYS OF THE CONDOR
カラー作品/パナビジョン/70ミリ
スーパーシネラマ方式上映

シネラマ

アメリカ/ディーノ・デ・ラウレンティス特作

クリフ・ロバートソン/マックス・フォン・シドウ

監督シドニー・ポラック

原作ジェームス・グレーディ(邦訳・新潮社刊)

脚本ロレンゾ・センプル・ジュニア

デビッド・レイフィール

撮影オーウェン・ロイズマン

音楽デビッド・グルーシン

(主題曲サントラ盤キャピトル)



東宝東和提供

11月29日(土)より新春特別大公開

スーパー・シネラマ・シアター
銀座 1丁目 **テアトル東京** (562)
5301

ロバート・レッドフォード フェイ・ダナウェイ



東宝東和提供

コンドル

THREE DAYS OF THE CONDOR

監督シドニー・ポラック/カラー作品/パナビジョン/70ミリ/スーパーシネラマ方式上映

シネラマ

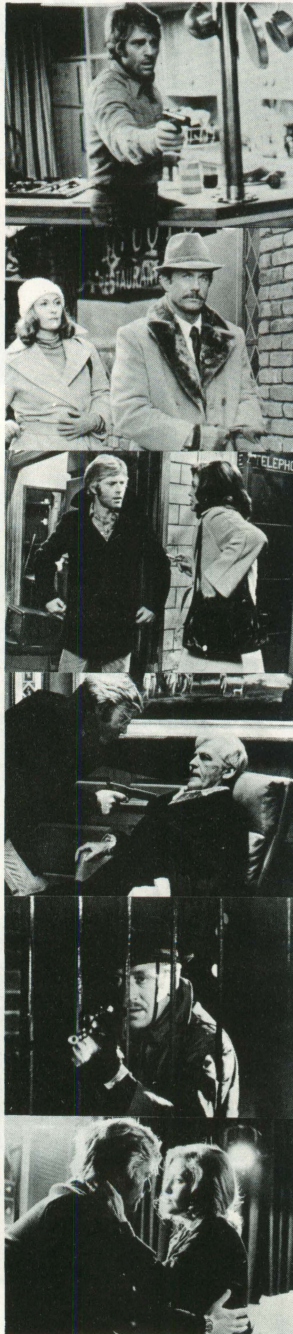
■人気最高の2大スター、魅力の初顔合わせで放つ華麗なるロマン・アドベンチャー!

いまや最高の人気を誇る2大スター、「スティング」「華麗なるギャツビー」のロバート・レッドフォードと、「パリは霧にぬれて」「タワーリング・インフェルノ」のフェイ・ダナウェイが初めて競演する。都会的でクールな魅力にあふれるこの2人が、現代アメリカの象徴ともいべきニューヨークを舞台に情報機関の末端に働く男と、大都会の片隅にひっそりと生きる女流カメラマンという新たな役に挑み、突然襲いかかった恐るべき罠と闘う中で、つかの間の愛を激しく求めて、華麗なロマン・アドベンチャーをくりひろげる。

■全世界を覆う巨大組織CIAに挑戦する男〈コンドル〉決死の闘い!

ニューヨークの中心部マンハッタンにある小さなオフィスが白昼襲われ、職員全員が殺された。偶然にも難を免れたターナーはすぐさまCIA（アメリカ中央情報局）のパニック・センター（緊急連絡本部）に今後の指示をあおいだ。このオフィスは、実はCIAの末端機関として、海外出版物の中からCIA活動に関連性を持つ情報・資料の整理に当たっていたのである。ワシントン郊外にあるCIA本部から派遣された課長ウィクスはしかしなぜかターナーを殺そうとして逆に重傷を負った。ターナーは行きずりの若い女を脅して彼女のアパートに身を潜めた。彼女の名はキャシー。一人暮らしの女流カメラマンだ。突然の恐怖に耐えながら、自分を襲った男ターナーを見つめる眼にはいつしか同情と優しさが宿っていた。めまぐるしい一日に身も心もすりへらして横たわるターナーも、孤独に生きる女の哀しみを感じとった。明日を信じられぬターナーは、その夜、彼女を抱いた。

動機は？目的は？…推理をめぐらすターナーにまたしても暗殺の魔手が伸びた。真相の究明にのり出したターナーは、CIAニューヨーク支部長のヒギンスに会い、同僚たちを



殺害した犯人こそ、かつてCIAに雇われたことのあるフリーランスの殺し屋ジョベアであることを知った。現在の所属はもちろん不明なままだ。ターナーがわかったのは、ただひとつ、以前、彼がCIA本部に、ある報告を独断で送ったこと——推理小説担当のターナーは、特定のジャンルのものが、オランダ、スペイン、アラビアの三ヵ国語だけにしか翻訳されない事実に対する疑問——だった。その報告をヒギンスは読んでいなかった。だが、これによって、重大な利害関係を脅かされる人物がもしCIA内部にいて、その秘密保持のためオフィスを襲ったとしたら……。

ターナーの必死の探索とほぼ平行して、CIA本部でも極秘裡に調査を開始した。やがて捜査線上に浮かび上がった人物こそ、CIAの要職にあって、独自の情報活動を行ない、特殊な国際戦略を推進するグループの首謀者であった。ワシントンの彼の私邸に乗りこんだターナーを待ち受けていたのは、何とあの非情な殺し屋ジョベアだった……。

■CIAの内幕を初めてあばき、全米に空前の反響を呼んだベストセラー、衝撃の映画化!

ニクソン大統領を辞任に追いこんだウォーターゲート事件を始め、南ベトナム政権やチリのクーデター、あるいはケネディ暗殺に至る一連の血なまぐさい国際的事件や紛争に直接・間接に係わりを持つといわれ、ここ数年世界のマスコミでそのゲーティな活動が批判にさらされているCIA。その知られざる内幕をあばいたベストセラーが、国際的プロデューサー、ディーノ・デ・ラウレンティスの実力と才匠シドニー・ポラック監督の鋭い感覚によって遂に映画化されたが、同時に『映画が初めてCIAに正面から叩きつけた痛烈な爆風』（ジョン・ハディ記者）と絶賛された。共演はアカデミー賞に輝くクリフ・ロバートソン、ベルイマン作品でおなじみの名優マックス・フォン・シドウ。脚本は「パピヨン」のロレンゾ・センブル・Jr.ほかの共同執筆。